

米国での日本産食材輸出拡大に向けた取組

○アメリカは、日本の農林水産物・食品の輸出先第2位

○アルコール飲料(特に清酒)の輸出は、アメリカが最大の輸出国。

○健康志向を背景に、緑茶の輸出も増加。

○コメ

NY(28年10月)、サンフランシスコ(29年1月)で、日本産米等のPRを実施

○花き

フィラデルフィアのフラワーショーでの展示(29年3月)、ロサンゼルスの花市場でのPR(29年2月)を実施。

○茶

日本茶大使等と連携し、ミレニアル世代(18-36歳)を対象に、SNS等によるPRを実施(28年度)。

○牛肉

ヒューストン、アトランタ、シカゴ、NYで、シェフやバイヤーを招へいし、和牛セミナーを実施(28年度計6回)。

○アルコール飲料

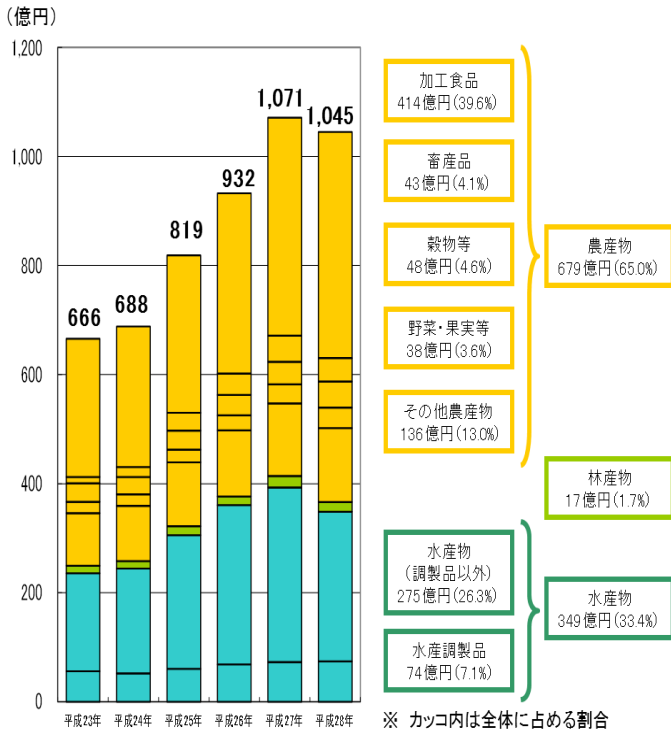
NY(28年10月)、サンフランシスコ(29年1月)で試飲やセミナーを通じたPRを実施。

○見本市・商談会

NYのSummer Fancy Food Show(28年6月)、サンフランシスコのWinter Fancy Food Show(29年1月)における見本市出展を支援

○インスタショップ

サンフランシスコ(27年度)、ロサンゼルス(28年度)において、試験販売への支援を実施



順位	品目	輸出金額 (2016年速報値)	対前年増減率
1	米	114億円	▲2.0%
2	アルコール飲料	102億円	8.6%
3	ホタテ	76億円	▲40.3%
4	ソース混合調味料	59億円	3.4%
5	緑茶	48億円	10.1%
6	ごま油	40億円	▲1.7%
7	練り製品	32億円	18.0%
8	真珠	31億円	▲12.2%
9	清涼飲料水	27億円	13.2%
10	牛肉	21億円	24.4%

米国での日本食・食文化の普及の取組

和食レセプション

(ニューヨーク:平成28年9月)

国連総会出席のために訪米されている大統領、副大統領、首相、外相、国際機関関係者等 約230名をカーネギーホールに招き、安倍総理による日本産の米(滋賀県産)、和牛(宮崎県産)、ブリ(鹿児島県産)、ホタテ(北海道産)等を使用した日本の四季が表現された料理で日本産品のPRを実施。



「日本食の日」の開催

(ワシントンD.C.:平成29年2月)

現地の料理関係者と連携して日本食普及推進協議会を組織し、現地で日本食普及に著しく貢献した者を選定。「日本食の日」イベントで、食ビジネスに強い影響力をもつメディア、料理人、流通関係者を招へいし、表彰式、日本食に関するフォーラム、記念レセプションを実施。



海外流通事業者等との連携

(ボストン:平成29年1月)

米国最大手の給食事業者と連携し、大学や企業の食堂で働く現場シェフを対象に、日本産品の料理法等を学ぶセミナーを開催。シェフがセミナーで学んだ成果を活かし、日本食メニューをボストン大学や現地企業の食堂で提供する「和食フェア」を実施。給食事業者の日本食メニュー導入の拡がりや継続的な日本食材の取引・商談を促した。



メディアを活用した情報発信

北米において、日本食文化や和牛、ブリ、ホタテ、米等を紹介する25分番組を制作し、NHKワールド等で放送(平成28年6~7月)。また、輸出重点品目である日本産の米、牛肉、水産物、茶、日本酒の60秒の品目別CMを制作し、CNNやNYタイムズスクエアデジタルディスプレイ等で放送(平成29年4~5月)。

